

新潟県燕市

笈ヶ島自主防災会

「地区防災計画」策定の取組み

笈ヶ島自治会の概要

1. 燕市について

燕市は越後平野のほぼ中央に位置しています。

新幹線駅名の「燕三条」から燕三条市と間違える人もいますが『燕市』です（ちなみに高速道のIC名は「三条燕」）。幸い、自然災害で大きな被害が出たことはありません。

燕といえば、「**金属加工の技術**」を世界に誇り、“**ものづくりのまち**”として有名です。皆さんが日々使っているスプーンやフォークも、きっと“**燕産**”ですよ。

また、4月に日本桜の名所100選の地・大河津分水で行われる**豪華絢爛な「分水おいらん道中」**は、皆さんに極上の時間をお届けすることでしょう。



笈ヶ島自治会の概要

かつて暴れ川と恐れられていた信濃川は、1922（大正11）年に完成した『大河津分水路』の恩恵により、以来、燕市はもとより信濃川下流域にも大きな水害は発生しなくなった。

至：日本海

笈ヶ島自治会

大河津分水路

信濃川本流

川幅

川幅

笈ヶ島自治会の概要

2. 笈ヶ島自治会について

[自治会概要 (H27.1末現在)]

- ・面積：約1.01km²
 - ・人口：683人
 - ・世帯数：201世帯
- [燕市全体]
- ・面積：110.94km²
 - ・人口：82,183人
 - ・世帯数：28,493世帯



笈ヶ島自治会は、自治会を単位として「地区防災計画」を策定中。燕市の南西に位置し、付近に「信濃川」及び「大河津分水路」が流れている。万一、河川が氾濫した際は大きな被害が予想される。

笈ヶ島自治会の概要

3. 過去の災害

大河津分水の恩恵により、外水被害は発生していないが、2011（平成23）年の新潟・福島豪雨では氾濫危険水位を超え、越水ぎりぎりとなった。一方、笈ヶ島地内では、道路冠水などの内水被害が発生した。

新潟県中越大震災及び中越沖地震では、大きな被害は出ていない。

4. 近年の状況

近年の住宅造成により、田畑が減少し、排水の逃げ場がなくなり、一昔前は起きなかった道路冠水が多発しているのが現状。いざという時のための避難路や避難場所の確保等の「地域の避難計画」策定が急務。



H23.新潟福島豪雨時の信濃川及び大河津分水路の様子

笈ヶ島の内水被害の様子

笈ヶ島「地区防災計画」策定の経緯

1. これまでの笈ヶ島の防災活動（H21.3.1に自主防災会結成）

○消防団と連携した避難訓練の実施（年1回）



○防災資機材の整備



○排水路の草刈りやゴミ拾い



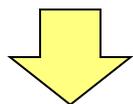
before

after

笈ヶ島「地区防災計画」策定の経緯

2. 「燕市防災リーダー養成講座」（別紙参照）への参加

- 平成24年度から始まった市主催の講座を笈ヶ島のリーダーが毎年受講
 - リーダーが防災の基礎知識を習得！
 - リーダーが地域防災の重要性を再認識！
 - そして、リーダーが講師と仲良くなった！
- 今年度の研修内容は、「水害（主に内水氾濫）」を対象とした『地域の防災マップづくりの手法』
 - リーダーが防災マップ作成の基礎を体得！
- 講座修了後、受講生のフォローアップとして、講師が各地域での具体的な防災マップづくりを支援



笈ヶ島自主防災会が手を挙げ、
「防災マップづくり」を基に
『地区防災計画の策定』がスタート！



【参考】燕市防災リーダー養成講座について

■燕市の災害特性と講座の方向性

- 壊滅的な災害の記録がない
- 街や農地が広がり、山地が少ない

- 人命損失リスクが低い
- 防災意識が低い
- 災害時に避難行動を起こしやすい

- 地域づくりを踏まえた講座とする
- 避難所運営を踏まえた講座とする

■講座の内容

燕市防災リーダー養成プログラム(2ケ年計画)

災害対策・直後対応(偶数年)

- ①講義: 災害対応事例
- ②視察: 対策・直後対応見聞
- ③WS: マップ作成(屋外巡検)
- ④WS: マップ作成(GW)
- ⑤発表: 活動報告会

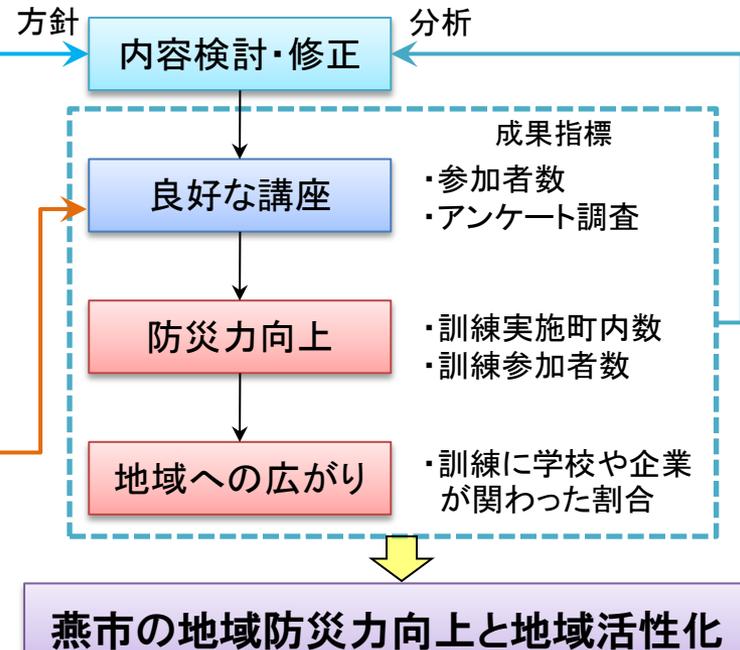
避難所運営(奇数年)

- ①講義: 自主防重要性
- ②WS: 避難所の適正確認
- ③WS: 「HUG」
- ④視察: 避難所運営の見聞
- ⑤発表: 活動報告会

- ①ガイダンス ②実習 ③具現化 ④体験(熟考) ⑤特別研修

発災・復旧・復興の進行方向

■講座の開催と期待される効果



笈ヶ島「地区防災計画」策定の経緯

3. 今年度の取組み目標

- (1) 防災マップ完成と全戸への配布
- (2) 作業を通じて明らかになった課題の解決方法についての検討

■活動スケジュール

H26.7	燕市防災リーダー養成講座受講修了（全4回）
H26.7.31	地域リーダーとの活動の進め方打ち合せ
H26.10	内閣府「地区防災計画モデル事業」に応募 → 11月採択
H26.12.6	地域の災害履歴等の状況確認ワークショップ開催
H27.1.27	作成された地図の確認と、そこでの課題や具体的対応の検討
H27.2.10	近隣の地元企業と緊急避難場所提供について意見交換
H27.2.12	近隣自治会と広域的な防災・防犯・消防について意見交換
H27.3～	防災マップ完成 → 地域の集会所にマップ掲示と全戸配布

笈ヶ島「地区防災計画」策定の経緯

4. 地域のワークショップの様子

- 実施日 H26.12.6（第1回）、H27.1.27（第2回）
- 場 所 笈ヶ島ふれあい会館（地域の集会所）



地域住民が、これまでの大雨の記憶を標高点の入った1/2,000の地図（※）に落とし込んでいく作業。

【工夫した点】

自治会の役員だけでなく、若手消防団員からも参画してもらった
→ 経験豊富な知識を有する世代と即戦力部隊の融合・協力

※国土地理院基盤地図情報を活用し「笈ヶ島用」の白図を製作（講師が製作・市がA0判に拡大印刷）

計画策定中に見えてきた笈ヶ島の防災の課題

1. 避難場所の不足

笈ヶ島自治会内の市指定避難所は県立高校と市立保育園があるが、保育園は平屋建てで水害時には使用不可。

県立高校は3階建てだが、市の洪水ハザードマップでは1・2階部分も浸水する想定で、使用できるのは3階部分のみ。平日に高校生がいる状態では、住民は収容できないのではないか？



県立高校（3階建て）
と市立保育園（平屋）
が隣接している

計画策定中に見えてきた笈ヶ島の防災の課題

1-2. 避難場所の不足の解決方法（進行中）

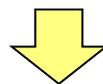


地域内にある「老健施設」（市指定避難所隣）に着目。



さらに、お隣の自治会に立地し、地域の中央から徒歩約10分で地上3階建ての地元企業に着目。

- ・ その企業は、年間数日を除き24時間稼働している！
- ・ 噂では地上3階と同程度の高さに500人収容の体育館があるらしい！



両者と『洪水災害時における緊急避難場所の利用に関する覚書（仮称）』の締結に向けて協議開始！！お隣の自治会も交えて、自治会と企業・福祉施設で覚書を締結できるよう鋭意取り組み中。



体育館の様子

計画策定中に見えてきた筈ヶ島の防災の課題

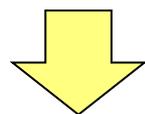
2-2. 地域の分断の解決方法（思案中）

幸いなことに大きな災害があったことのない住民は、そもそも自分が避難すべき避難場所もわかっていないことが現状。そこで・・・

まずは、防災マップを活用して地道に訓練します！

分断した北部の住民が避難する場所では、他所の自治会と一緒に災害対応となるはず。ということは・・・

もっと広域での防災連携が必要ではないか！



今、できることは

- ・隣接する4自治会と「防災・防犯・消防」について意見交換を開始した！
- ・防災マップも地域内で完結はしないはず。マップづくりのノウハウを他の地域に提供していこう！

（まだまだ足並みも揃いませんが、“今できること”を地道に取り組みます）

箕ヶ島自主防災会の今後の予定(展望)

1. マップの住民への周知

3月末までにマップを完成させ、地域内4つの集会所に掲示（A0判）と全戸への配布（A3判）。

住民から捨てられないように「ラミネート加工」、玄関先にかけてられるように「リング」を取付ける予定。
→ 市の補助金を活用（上限2万円、50%補助）
配布前には住民向けに説明会も開催予定。



(イメージ)

2. マップを活用した防災訓練の実施

例年実施している地域の防災訓練において、避難経路の確認などマップを活用した取り組みを行い、避難計画の策定及び修正を随時実施。

いずれは、緊急避難場所の提供企業及び老健施設と「協働での避難訓練」を計画し、実際に避難行動をとってみたい（目論み）

箕ヶ島自主防災会の今後の予定(展望)

3. 今後の“希望的”ロードマップ

STEP1

- 防災マップの完成と周知
- 一般企業・福祉施設と緊急避難場所の覚書締結
- 防災マップを活用しての防災訓練実施

STEP2

- 訓練を振り返り、課題の抽出と解決
- 課題を克服した箕ヶ島自主防災会の避難計画策定

STEP3

- 広域で連携しての防災の取組みを広めたい
- 近隣地域（できれば小学校区）を網羅する防災マップ作成

STEP4

- （一気に飛躍して）市内全域に防災の取組みが広がり、防災だけではなく「地域活性化」の一助になれば幸いです！

「第73回分水おいらん道中」
観にきてね！
【4月19日（日）開催】

